



大和中ロータリークラブ会報

YOU ARE THE KEY あなたが鍵です

1985-86 R.I 会長 エドワード F カドマン

上田会長 クラブターゲット 仲よく 語ろう ローター

第 364 回 例会 60 年 9 月 26 日 第 370 号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
55名	44名	81.48%	98.15%

欠席者 (10名) 病欠 (1名)

二見 橋本 古田土 小島 三浦 中西
大西 染矢 辻 渡辺本日のプログラム 10 月 3 日
一泊研修会 於 熱海「よろずや」次週予定 10 月 10 日
祝祭日(体育の日)のため休会司会 SAA 伊藤英夫君
ソングリーダー 北砂富三君「我等の生業」

《ゲスト》

宮内邦夫氏(青少年相談治療センター所長)

《ビジター》

加藤哲也君(横浜瀬谷) 名屋大二君(綾瀬)
安藤忠夫君(大和) 関沢忠雄君(大和田園)

《会長報告》

- ・いよいよ地区大会が迫って参りました。それぞれの特に委員長の方々が予定を組んでいて下さることに感謝します。2日目に御家族向けのプログラムが組まれております。折角の機会ですのご家族の方々と一緒に生のオーケストラでもお聴きになっては如何かと思っております。
- ・10月3日熱海での一泊研修会、お宮の松で6時にお逢いしましょう。どうしようかと思っ迷

っておられます方、今からでも遅くありません。100万ドルの夜景が皆様をお待ちしております。幹事までお申込み下さい。

- ・ポールハリスフェローになられました後藤定毅さんにメタルとバッジが届いておりますのでお渡し致します。

《幹事報告》

- ・本日例会後、臨時理事役員会を開催致します。
- ・会長より地区大会と一泊研修会のご案内がありました。地区大会登録料6,000円と一泊研修会参加費13,000円の納入をお願い致します。
- ・10月3日(木)が時間、場所臨時変更で、10月10日(木)が祝祭日のため休会となります。当会場での例会は17日(木)までございませんので、メイクアップ等十分ご注意下さい。

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

事務所：大和市中心1-5-40
大和市商工会館内
☎0462-63-7926
例会場：大和市大和南1-4-4
八千代信用金庫大和支店4階
☎0462-64-3654

例会日：毎週木曜日12時30分より
会長：上田利久
会長レク：藤田重成
副会長：富沢重徳
幹事：近藤富士男
会報委員：松崎・種ヶ島・木村

《クラブフォーラム》

「青少年奉仕について」

高橋青少年奉仕委



員長：今月は青少年活動月間となっておりますので本日はクラブフォーラムを開催致したいと思います。先ず私の方から最近の青少年の現状につ

いて知っている範囲内で話をさせて頂きまして、本日おいで頂きました宮内先生から色々とアドバイスを及び青少年の心理的なこと、問題点等につきましてご専門の立場から約20分間お話を伺いまして、のち会員の皆様との質疑応答をして頂きたいと思ひます。

最近の青少年問題について

戦後第3のピークとも言われました校内暴力とか家庭内暴力の非行の問題は、昨年あたりから下火になっているといわれております。その代りに新聞テレビ等で報道されておりますように“苛め”の問題が大きくクローズアップされております。そしてそれに耐えられず自殺をした人もいるという話も聞きます。身近かな事例としましては大和市内の県立高校で普段苛められていた生徒がナイフで苛めた生徒を刺したという事件がありました。中学生も半数あり、いわゆる中学校生の苛めの問題が多いといわれております。苛められた子の登校拒否も多くなっているということです。苛めの動機は腹いせ48%でからかってやるが45%（いゝ子ぶっているの。力が弱くて抵抗出来ないの）で、これについての解決策はなかなかありません。原因としてあげられることは、家庭内で親子の話し合いが出来ていないということです。こうしたことを追放するために神奈川県では今、盛んに提唱されております「触れ合い教育」というものが進められています。これは“自然との触れ合い”と“人との触れ合い”にわかれています。“自然

との触れ合い”の中では野外活動とかサークル、子供会、地域の団体によるキャンプ、オリエンテーリング等を通じて青少年同志の触れ合いをしていこうというものです。人との触れ合い、は言うのは簡単ですがなかなか難しいことであって、青少年の地域に於ての参加が一番大切であるといわれています。触れ合いには段階がありますが、果して参加をして自分達の気持、自分達の意見が地域の人達、大人達に通じることが出来るということになりますと難しいので子供の心理は我々大人に理解出来ない点があるかと思ひます。ロータリアンはそれぞれの地域で、又職業を通じて活動している人達ばかりですので、皆さんが地域で受けている役員、奉仕している役職等の中で子供達が自然に受け入れられるような状態を作りたいと思ひます。各ロータリアンは青少年の模範となるようにしなくては行けないということがロータリーの雑誌にも出ていましたが、国際ロータリーが青少年活動月間を設定した大きな理由かと思ひます。それでは宮内先生をご紹介致します。

紹介：現在、大和市青少年相談所の特別相談員でございますし、横浜市大、横浜国大の講師もしておられます。又元横浜家庭裁判所主任調査官としまして34年間奉仕をされました。又、現在横浜のちの電話ボランティアとして相談を担当しておられます。神奈川新聞に週2回連載され記事を出しておられまして現在170回続けておられます。

宮内邦夫氏

ご縁がございまして大和市教育委員会に週1回というお約束で勤務しております。こういう非常勤職員はないそうですが特例でお認め頂き、週1回の日を有効に使い出来るだけ大和市の子供達の問題にお役に立てたらと、心の底から思っております。

私の専門は心理学でございまして横浜国立大学では家族心理学という講座を担当しております。先程お話のありましたいわゆる“苛め”の問題は新しい社会病理現象でございまして社会病理学では、そういったことがあると周りの人達の心が傷

つき痛み誰かが悩みを感じ苦しみを感ずるとい
ような状態を人体になぞらえて、一種の病理現象
というように規定しているわけです。

私の一族は家内の家もそうですし私の父も兄弟も
私の息子もすべて医者ですが、医者の方が簡単に
医学的な病理というのは割に理解しやすいです。
生命の維持と生きている人間の苦痛の除去という
非常にはっきりした目的がありますから。然し社
会病理となりますと何が一体病理なのか非常に理
解しにくくなってきます。例えば公害の問題
とか交通渋滞の問題等も一種の社会病理的な現象
ですが、然し現実にはトラックが動いていることが
交通渋滞になる反面、我々の生活を便利にしてい
る部分もありまして何か社会病理現象が解らない
部分も沢山あります。

今日は大急ぎで非行のお話をしたいのですが、い
わゆる青少年問題には大きく分けると二つの大き
な分野があります。一つは健全育成の分野、もう
一つは健全育成からはずれて心をわずらった子供
達に対する治療の分野であります。私は後者の分
野に携っているわけです。

ある有名なイギリスの哲学者達は『現代という時
代はユートピアというのがすでに、我々の夢では
なくなった。これは現実の理想である。但し、理
想郷に近づくためには、沢山敵に勝たなくては
いけないが、そのうちの最も大きな敵は三つあり、

①病気 ②極端な貧困 ③心の問題 特に非行で
ある。』と述べています。ロータリアンの皆さん
のように指導的立場にある方に本当に考えて頂
きたいのは心の問題です。医学は我々の幸せのた
めに戦い勝ってきましたし、貧しさも撃退してき
ました。しかし心の病気には勝っていません。非
行は増える一方ですし、心身症の症状を持った子
供達も増える一方です。私自身は非行については
余り心配をしておりません。然し心身症的社会不
適応行動は、今後青少年問題として心配して
おります。登校拒否、家庭内暴力等もそうです
し、自殺そのものは神経症ではないのですが、か
なり神経症的反応といってもいゝであろうと思
うわけです。

苛めなどは中間にありまして、どちらに入れて
よいか解らないメカニズムを持ったものです。苛
める側の問題がありますが、その苛めを傍観者の
問題、又、どうして或る特定の者が苛められる
ことになるのか、苛めたくなるような人格とい
うのがあるわけです。しかも苛められるとその苛
めに耐える力が殆どないわけです。これは今問
題になっています親子関係からきています。

例えば万引といいますが、〇〇が欲しい、だけ
どお金がないから買えない。だから盗る。とい
うのがドロボウの一番基本的な態度だと思
うのですがそんな子は居ません。仲間から仲
間外れにされるのが怖いから、ある集団に
所属するために自分も盗ってみせるとか、或
は潜在意識の中で親に対する一種の攻撃とし
て自分が万引をして捕まってみせれば、親が
かなりの打撃を受けるはずである。要するに
親に対する攻撃欲求は満足される。だから盗
ってみせるといふのです。今の子供達の問題
というのは、心理的にみてもみますと大変複
雑です。

今、どこの文明国でもマリッジカウンセリ
ングという事務所は満員です。しかし日本人
は夫婦関係がおかしくなると子供が心理的
におかしいのではないかとか意志が弱い
のではないかとか、意地悪なのではないか、
ケチなのではないかといったような心理
的な歪みのようなものがあり専門家を
尋ねようとする人はいません。登校拒否
にしても早く来てくれれば99%治ります。
然し、心理的な病気で、心の病気で専
門家を尋ねるのは、病気でいえば瀕死
の状態になってからなのです。心理学
が進んでいないということはありません
が、身体医学に対する程度の信用を心
の医学に対して持っている。そうす
ればかなり現在の心をわずらっている
人達は早く治療される部分がある
と思います。

医学を信ずるといふのですが、例えば
大学病院の裏門から死体になって出
ていく人は、いくらでもいるわけ
です。でも医学に対する信頼はゆる
ぎません。しかし例えば少年院、
これを私は心の病院

だと思っているのですが、オーバーでなく皆様に認識して頂きたいのは、現在の少年院から退院する時は90%位の子は本当に治療されて出てきていると思います。——種類にもより久里浜少年院というのは重症の重症の重症の患者だけ入れていますので、あそこを出た子はかなりの再犯率がございいますが、軽い子供達を入れている有海高原寮とか静岡少年院の子供達は——然し出てきた子供達を待っているのは同じ環境なのです。同じ条件なのです。例えば帰ってきた時に本当に良い友達が暖かくは迎えてくれないのです。その子に声を掛けるのはやはり昔の仲間なのです。ですから再犯したからといっても少年院が悪いのでもなく、本人が悪いのでもなくその周りの理解が十分でないだけなのです。少年院のような心の病院はもっと信頼されていゝ筈だし早い時点での心の治療というのが考えられてよいのではないかと思います。家庭をしっかりとしないと、お父さん、お母さんがしっかりとしなければ、いくら子供を治そうと思っても治りませんので、夫婦関係の調整のためのマリッジカウンセリングをやるような所を作ろうと思い、横浜駅前に「人間関係相談治療センター」というのを精神科医1名、内科医1名、弁護士1名、家庭裁判所に20年以上勤務した心理の専門職を8名で作ったのですが、来る人は先ずいません。心の科学はまだ信頼されていません。しかし非行も登校拒否も夫婦ゲンカも心の病気でして、本当はそういう時に専門家にかけて頂いたら、うまく治ると思うのです。

何かでお困りの方がありましたら私は自宅にお電話を下さればお名前を聞かないで30年来相談にのっておりますのでご利用下さい。但し法律問題はダメということゝ、午後10時～11時までという時間を守っていたこと。（03-771-1974）

皆様もそうだと思いますが人間にとって一番大切なことは、自分の周囲にある与えられた社会資源をどの位上手に活用するかということが、限られた時間を生きている人間にとっての勝負だと思っています。私もある意味で社会資源としてご利用

用いただいたらいいわけで、私は人に利用されるのは平気でして同様に人を利用するのも平気です。私もいくらかでも利用されますので、皆さまも利用されて下さればと思います。私も還暦でして決して若くはありませんので残された時間はそんなに多い筈はありませんので、出来るだけどなたかのお役に立てれば、これに勝る喜びは心の底からありません。

これから大和で、出来る限りのことをしようと思っていますので、大和市のトップにある方々と顔だけでも覚えて頂けたのは、この上ない幸せでございます。

高橋君：先生には短かい時間で申し訳ございません。いろいろとお話をお聞きしましたが、特に少年院から出てきた子供達をどう受け入れるかという問題提起がございました。が先生に対してのご質問、ご意見がございましたらどうぞ。特にいらっしゃらないようですので、地域でいろいろの活動をされ保護司などもやっておられます伊藤英さんいかがでしょうか。

伊藤英君：たまたま来月松本少年院を見学に参りますが、子供一人一人は本当に素直ないゝ子なのですが、お話にもありましたように仲間として一般の子供が声を掛けてくれず一人っ子になってしまい。又昔の仲間に入っていく、という子供の弱い面を我々が何とかしなくてはいけないと思うのですが…集団をどのような形で我々の出来る範囲でやるものなのかお教え頂ければと思います。

宮内先生：大和市まで来て楽しいと思いますのは地域社会があることです。又、集団の話ですが、人間というのは集団所属というのが本能でして、基本的な欲求でして、空気がないと生きていけないということと同じに、ある集団に所属しないと生きていけないのです。いっぺん集団に所属しますと人間というのは、どんなことでも出来るのです。例えば売春をする子は特殊な子だとおっしゃるのです。一般的に売春をするのは特殊な子かも知れませんが。でもいったん非常に上手に集団の中に組みこまれますと、ちゃんと売春が出来るのです。

それほど人格がくずれていなくても。私がよく話す例ですが、私は19才まで熱心でまじめなクリスチャンとして育ってきたのですが軍隊という集団に入ったのです。するとそれ以前までキリスト者集団にいた時には本当に虫も殺さない人間を大事にする人格だったのが、ちゃんと軍隊という集団に所属したいから、目の前に敵がウロウロしていれば心臓を狙って引きがねが引けるのです。だから私に殺人の趣味があるかというとなんともありません。軍隊という集団の中にいたから平気で人殺しが出来たわけで、集団から外れた私は、終戦になり大学に帰りましたがその時は相変わらず気の小さいやさしい1人の子供になったわけです。集団から上手に外してあげませんと人間というのは、シンナーを吸っているのではないかと。暴走しているのではないかと、悪いヤツだと……。他の集団に入れてくれないで、その集団にいる時にだけ安らぎを得られるとしたら暴走は悪いと思ってもやるのです。集団から外してあげるだけで普通の人になれる人は沢山いますので、その辺の理屈をもう一度反芻してみても頂くと非行のある子供達に対するご指導が違った観点からみられるのではないかと気がします。私の出来ることは致しますので私の所に連絡いただければと思います。

上田君：大変素晴らしいお話で、私は小児科なのですが何かエリを正さなければならぬという心境です。先程のお話の中で社会的復帰不適合症候群が増えているということでしたがその中で、苛めたくなるような人格、苛めに耐えられない子供が増えている。後者につきましては私達は最近の専業主婦のお母さん、おじいちゃん達に余りにも大事にして育てられている。しかも子供が少ないために2〜3才になるまでは子供同志の触れ合いが全くないために、苛める時の痛さのようなものが解らない。それが今の陰湿の苛めに何らかの影響を及ぼしているのではなからうかという感じを持っているのですが、今、ご指摘になりました苛めたくなるような人格というのはどういう生活環境で育ち易いというようにお考えでいらっしゃいます

ますでしょうか。

宮内先生：只今先生のおっしゃる通りでして、現在苛められやすい子供が出来てしまっている。しかも苛めに耐えられない子供が出来ている。苛めはどこの世界にもあると思うのですが、苛められることに対してどう適応していくかというような姿勢みたいな問題もあります。一番大きな問題は只今ご指摘の通り親が過保護、過干渉に育てられることが問題なのではないでしょうか。

子供というのは私の時代には、神様から与えられるものみたいな感じで生まれてきたと思うのですが、今の子供は人間がつくるもの、親がつくるものになってしまったわけです。この意識の差が根幹にあり、日本の親は優秀だと思っているのですが、日本の親は干渉はするのですが説明をちゃんとしません。子供達というのは本当に説明すると解ります。その説明が押しつけになると反発します。説得しようとするとなかなか聞いてくれません。然し彼等自身が彼等自身のことを決めるのだという姿勢で話をさせていきますと非常に最も理想的な形に自己決定してくれるものです。これはアメリカのシカゴ大学のロジャースという人が言いはじめたカウンセリングの理屈にも合っていることです。

心理学上の実験にも沢山あるのですが、ちょっと説明を上手にしてあげると非常に意欲的に安い賃金でも働らくし、説明を省いてしまうと全くやらなくなってしまったといったような心理学上の実験は10種類近くあります。だから子供達に押しつけでない説明、本人達が自己洞察を深められるような説明をすれば、今の子というのは我々の時代よりもっと解るのではないかと私は思っております。人間の心は人間のすべてを支配しているものだと思います。ですからやはり心を中心であると私は思っております。

高橋君：先生の方から心の問題ということを提起されました。自分達の地域で、職業を通じて青少年奉仕につきましてご協力の程お願い致します。

会長：今のお話を伺い、もっともっと心の問題を

大切にしていかなければならないと感じました。
E. W. パーマーというロータリー財団委員長は、「我々の主な目的は明日を担う青少年のために広い道をつくることである」と言っておられます。お世辞ではなく今日のような素晴らしいお話をこゝ数年来久し振りに伺いました。「甘ったれ」「甘え」の違いは何であるかということを常々考えておりましたが、親がもっと説明をすれば、そういう気持があれば甘ったれと甘えがもっと素晴らしい展開を示すだろうと考えました。

《委員会報告》

音楽同好会 北砂富三君

会長からお話がありましたように地区大会第2日目の29日(日)にアトラクションとして島田祐子さんと神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏が3時よりありますので御家族の方々と一緒にお聞きになりませんか、ということです。是非ご家族の皆様をお誘いの上ご出席下さい。

《お祝》 おめでとうございます!

3年皆出席 長野俊八君
お誕生日 前原一男君 (9月28日)
御夫人お誕生日 古郡 清君京子夫人(9月28日)
結婚記念日 北砂富三君 (9月23日)
創業記念日 竹本正俊君 (10月1日)
入会記念日 細野順造君 (55年10月2日)
長野俊八君 (57年9月9日)

《スマイルボックス》 委員長 古川 巖君

加藤哲也君(横浜瀬谷) お世話になります。
名屋大二君(綾瀬) 度々お邪魔します。宜しくお願いします。
安藤忠夫君(大和) 暫らくぶりでお世話になります。
関沢忠雄君(大和田園) 本日はお世話に相成り

ます。宜しく願い致します。

上田利久君 青少年月間に際して青少年相談治療センター所長宮内邦夫氏のお話を伺うことを感謝して

細野順造君 入会記念有難うございます。

長野俊八君 入会記念、3年皆出席二つを祝っていただき有難うございます。石の上にも3年とか、これからも頑張りますので宜しくお願い致します。

前原一男君 お誕生日のお祝ありがとうございます。白髪が目につくようになりました。

健康に注意して頑張ります。

竹本正俊君 創業記念日祝っていただき有難うございます。まもなく開業以来12年となります。今のところ倒産はなさそうですが、だいぶ疲れて参りました。

9月は青少年活動月間

青少年は青春を無為に過ごしている、と言う人もいるが、クラブは青少年活動月間を生かしていないなどと言われたいないようにしよう。ロータリーが青少年のために尽力している数々のことを人々に知らせるために9月の30日間すべてをフルに活用しよう。

ロータリーは、ローターアクト、インターアクト、青少年交換、RYLAを通じ、また職業指導や麻薬に関するカウンセリングのような数多くの活動を通じて、青少年援助というロータリーの約束を実践し続けている。

だから、遠慮しすぎないことである。私達が青少年をないがしろにしていないということを地域社会に知らせるため9月を活用しよう。